

秋も深まり、木々が色づき始める季節となりました。秋といえば芸術の秋、食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋・・・色々ありますね。秋の夜長、何かに打ち込んでみるのもいいかもしれません。

さて、11月4日、5日のオープンスクールには、たくさんの方にお越しいただきました。「子どもたち頑張っていますね。」「明るい雰囲気ですね。」などと温かいお言葉をいただきました。引き続き、子どもたちの楽しく充実した学校生活のため、支援していきたいと思えます。

## 学校行事予定



令和7年12月

- 1（月）高等部選挙活動期間（～8）
- 4（木）高等部販売学習（校内）
- 9（火）高等部生徒会立会演説会
- 10（水）中1地域交流、言語指導相談
- 12（金）スクールカウンセリング

- 15（月）作業療法相談
- 18（木）中1三校交流
- 23（火）短縮授業 11:40 下校
- 24（水）終業式、短縮授業 11:40 下校
- 25（木）冬季休業開始

※行事や授業予定は今後変更もあります。変更時は本校 HPにてお知らせします。

いなみ野特別支援学校 HP

<https://www2.hyogo-c.ed.jp/weblog2/inamino-sn/>

QR コードはコチラ！ ⇒



## いなみ野の学習活動 中学部

10月17日（金）に中学部2年生で、障がい者支援センター「てらだ」へ現場見学に行ってきました。障がい者支援センター「てらだ」では、地域活動支援センターの様子や利用者さんが作られた作品を見せてもらい、第2工房で単管キャップのシール貼り作業を実際に体験させてもらいました。生徒たちにとって、単管キャップは普段なじみのない物なので、事前学習で単管キャップがどういうものか、という説明もしていただき、その中で「単管キャップがシールで光って見やすくなるのは、シールを貼るお仕事をしてくれている人がいるおかげで、お仕事は世の中の役に立っているんです」という言葉に、思わず「かっこいいな」とつぶやく生徒の姿も見られました。

現場見学の実施にあたり、障がい者支援センター「てらだ」の皆様



は、下見の時から当日まで大変親切にご対応いただきました。そのおかげで、生徒たちはそれぞれに、仕事について意識したり、仕事をしている人の格好良さを感じたり、学校生活を頑張る意欲につながったりと、大変有意義な学習になりました。



ちよつと

ひとやすみ



『脇役になれない子どもたち ―不登校の正体―』（著：桑島隆二、出版社：アメージング出版）

文科省の大規模調査によると、不登校の理由として「無気力・不安」が大半を占めていることが分かっています。では、どうしてこんなにも多くの子どもが“無気力”や“不安”を感じてしまうのでしょうか。

本書では、心理学の視点から子どもたちの心の動きをていねいに読み解きながら、不登校の背景にある現代教育の課題に迫ります。

たとえば、「自分には他の人とは違う“特別な力”があるはずだ」という“特別感”。実は、多くの不登校の子どもがこの感覚を持っているといいます。まわりの大人がたくさん褒めてくれる環境の中で、自分の苦手なことに気づかないまま成長し、小学校高学年や中学校に進んだときにそのギャップを実感してしまう――。「あの特別感は本当じゃなかったんだ」と感じた瞬間から、不登校につながるがあると本書は指摘しています。

「子どもは褒めて伸ばすもの」と思いがちですが、褒めるだけでは子どもが“特別感”と向き合えないままになることもあります。では、どんな関わり方が子どもにとって本当の意味でプラスになるのでしょうか。不登校の子どもたちをどう支えていけばよいのか――本書はそのヒントをわかりやすく教えてくれます。

不登校支援に関わる先生方はもちろん、担任の先生方にもぜひ読んでいただきたい一冊です。

※書影・書誌情報の掲載については出版社より許諾を得ています。

桑島隆二

―不登校の正体―

脇役になれない  
子どもたち

30万人を超える  
不登校の核心に迫る

褒めすぎの問題点、自己肯定感の勘違い、  
受け入れるとあきらめるの違いとは？

終わりの見えない不登校のゴールが見える

講演会で  
共感  
続出！

アメージング出版

支援のタネ



スプーンやフォークがうまく持てない子どもには、きれいな持ち方（中指で支える三点持ち）を指導します。持ちやすい食具を選ぶことも大切です。丸い柄が持ちやすいです。利き手でない方の手は食器を持ちます。食器を傾けながらスプーンで食材をすくう動作ができると良いです。

